

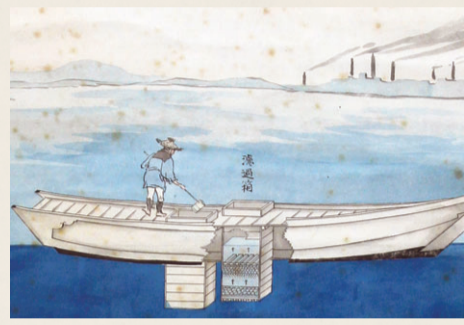
みなとまち新潟
歴史探訪 50
 新潟県 歴史文化課
 ☎025-278-3260

「水の都」新潟の飲み水事情

信濃川と阿賀野川に育まれた新潟は「水の都」とも呼ばれますが、飲料水の確保には昔から大変な苦勞がありました。一部の砂丘地帯では井戸を掘ることで良質な水を確保できましたが、その他の地域では川の水を飲み水として利用してきました。

信濃川から水を得ていた新潟島周辺では、船で川の中ほどの水をくみ飲料水として売る水売り業が明治になっても繁盛していました。しかし、川の水をそのまま飲用に使うのは不衛生だとして、明治10(1877)年に「新潟港内販水規則」が出され、水をくむ船にろ過装置を付けることなどが定められました。「濾過船」と呼ばれた船には、シュロの樹皮や砂利、細砂などを入れた箱が取り付けられ、川の水を下から上にこしてくみ上げる仕組みでした。

その後、市内でコレラが大流行したり大火が相次いだりして、水道の敷設が急務となりました。明治43(1910)年10月1日、ついに近代的上水道が完成し、市民が待ち望んだ衛生的な飲料水の供給が始まりました。全国では19番目の水道でした。



ろ過箱でこした川の水をひしゃくでくむ作業
 (「濾過船之図・販水船之図」部分)

新連載
新潟の食を巡る ①
笹川餅屋 (中央区・餅屋)
 歴史ある企業や店舗を訪ねます。

新潟名物 笹団子

同店は、笹団子が新潟市内で土産品として販売されるきっかけとなった店です。「諸説ありますが、元々農家がくず米を長くおいしく食べるために家庭で作っていたものを、私の祖父が昭和39年の新潟国体の土産品に改良。出場した選手たちにより新潟名物として全国に広まりました」と話してくれたのは6代目店主の笹川太朗さん。



店主
 笹川 太朗さん

歴史ある店を継ぐ

笹川さんは、10年前に東京からUターンして店を継ぎました。「130年以上も続くこの店がなくなったら後悔すると思い、チョコレート会社の営業を辞めて戻ってきました。大変なこともありましたが、帰ってきて良かったです」

お客さんに喜んでもらえることが一番のやりがいと話す笹川さん。新商品の開発にも意欲的で、「この夏始めたかき氷『笹団氷』は若者にも好評です。今後も老舗の味を守りながら新たな挑戦をしたいです」と笑顔で話してくれました。

公共施設を再編って何？

新潟市では、市民の皆さんが将来も安心・安全に公共施設を利用できるよう、施設の再編を進めています。今回は、公共施設再編の考え方についてお知らせします。
 問 財産活用課 (☎025-226-2387)

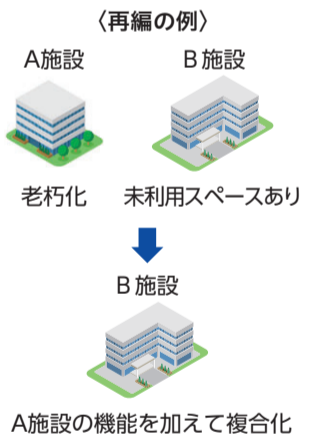


その1 再編で施設はなくなるの？

A. 施設数は減りますが、サービス機能はなるべく維持していきます。

利用率の低い施設を同じサービスの施設に集約したり、スペースが余っている施設にほかの施設のサービス機能を入れて複合化したりするなど、施設利用の効率化を図っていきます。

新潟市では、各施設を「利用者の利用圏域」と「サービス機能」の観点で分類し、集約や複合化などの配置方針を決めています。



色んなサービスを使う人が1つの施設に集まれば、新しい交流の場になるかもしれないね！

公共施設の再編について詳しくはこちら▶

その2 再編する施設は自動的に決まるの？

A. 地域の皆さんと一緒に検討していきます。

学校や公民館など地域に密着している施設は、施設の配置方針や利用状況、老朽度などを評価した一定のルールを基に、新潟市が再編案を作成します。これをたたき台として、地域の課題や将来のあり方を含めて施設の存続や集約などを決める「地域別実行計画」を、地域の皆さんと一緒に策定します。同計画は、改修時期が迫っている施設が多い地域などから順に検討を開始していきます。

策定後は同計画に基づいて、施設の改修が必要となる時期などを目安に実際の再編を進めていきます。

将来、私たちがサービスを受けられなくて困ることがないように、いくつもの手順を踏んで再編を進めていくのね。

地域によって課題はさまざまだから、地域ごとに計画を検討するんだね！次回は、地域と一緒に作る「地域別実行計画」について取り上げるよ。

差別・偏見をなくしましょう 問広聴相談課 (☎025・226・1025)